

科目	動物形態機能学実習		
担当講師 北島眞実子 実務経験有 獣医師免許 大学卒業後動物病院に10年間勤務し獣医療に従事			
開講年次	授業形態	選択/必修	授業時間
動物看護、動物管理学科 1年次後期	講義	必修	30
<p>授業目標 動物形態機能学で学ぶ体の機能と働きについてその構造や仕組みについて、実際の動物や顕微鏡、模型などを使った実習をとおして深い理解に繋げる。</p> <p>授業概要 ・動物の体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像等を通じて学ぶ。 ・顕微鏡操作法、標本による骨格形態と機能を理解する、模型による内臓形態と機能の理解、主要臓器の組織像観察</p>			
<p>成績評価の方法 成績評価の方法 評価の基準は筆記試験による。また本科目受験には出席率が3分の2以上であることが必要。試験は80～100点がA評価、70～79がB評価、60～69までをC評価とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし評価はCとなる。</p>			
<p>教材 動物形態機能学（ファームプレス）、犬の骨格標本、犬の筋肉標本、組織プレパラート、顕微鏡等</p>			
授業計画 毎週月曜日 2限目 10:50～12:20			
回	授業内容		
1	動物形態機能学概論		
2	体表面 大尉と方向を示すとおり用語を知り、説明する。		
3	運動器（骨、関節） 骨格標本を用いて代表的な骨を観察し名称と特徴を理解する。		
4	代表的な関節の名称と構造機能を理解する。		
5	代表的な骨格筋の名称と構造機能を理解する。		
6	代表的な深層筋（体幹筋、四肢の筋）の名称と構造機能を理解する。		
7	代表的な浅層筋の名称と働きを知る。		
8	模型などを用いて主要な内蔵の配置について理解する。		
9	生殖器の雌雄差を理解する。		
10	顕微鏡の各部位の名称、鏡検条件について理解する。		
11	顕微鏡の適切な操作法を理解する。		
12	顕微鏡の適切な管理法を修得する。		
13	主要臓器の組織像の観察スケッチ等により理解を深めめる。		
14	組織像に見られる代表的な構造について、機能との関係を理解する。		